

地域自然情報ネットワーク 第7期事業計画

平成 21 年 7 月 1 日から平成 22 年 6 月 30 日まで

1. 自然環境の調査解析にかかわる技術の企画・開発および評価事業

● 地域性苗木導入についての評価業務

道路の切り土のり面における地域性苗木の導入による、自然復元の状況を調査し、評価を行う。評価結果はNPOによる事業評価の事例として会議等での発表を目標とする。昨年度に引き続き植生調査、フロラ調査、生物の生息にかかわる画像および音声の収集につとめる。結果はCop10にむけたプレゼンテーションとして整理する。

● 日の出町総合的文化財把握調査における景観調査、および歴史文化構想の検討

東京都日の出町において総合的文化財把握モデル事業の中で、文化財として、あるいは様々な文化財を包含するものとして、景観調査を行い、その結果を総合的な文化財の把握に活用する。

さらにこれらの結果をもとに歴史文化基本構想及び関連資料の検討を行う。

● アサダ発芽試験および苗木育成事業

採取されたアサダ種子について、その発芽条件の検討を行う。その上で種子の発芽および苗木の育成にかかわる作業および試験・記録を行う。

● 東京都エコロジカルレッドデータブック作成

前期に引き続き、東京都内における希少な生態系や脆弱な生態系を抽出し、生物種や群落だけではなく、「場」の保全ができるような生態系レッドデータブック整備のための基礎的な調査および図化を行う。

2. 自然環境情報の整備・公開事業

● 上サロベツ自然再生事業

再生技術部会および再生普及部会に参画する。今年度は、サロベツ協議会普及部会で支援事業「サロベツエコモーププロジェクト」の一環として提案採択されたエコツアーの実施の具体化に向けた具体的な検討を行う。

3. 自然環境保全等にかかわる人材育成・啓蒙活動事業

● 東京環境工科学園での人材育成

東京環境工科学園学生を対象に、自然環境分野へのGIS基本および応用技術に関する集中講義を行う。初級編は前年度が初めてであり、各種の反省などを踏まえて若干の改良を行いつつ進める。また、応用編については継続実施中であり、つつがなく進めていくと共に、応用編で大きく受講生が減った原因を検討し、場合によっては講義内容等の改良をこころみる。

- **社会人自然環境 GIS 講座**

社会人を対象に GIS 講座開催，GIS による解析・応用技術の普及とそのための人材育成を図る。本年度は応用編の実施にむけて，本格的な準備を行い秋口の実施に向けて進める。応用編の内容としては「データ作成編」，「解析編」の2つのテーマが考えられる。

- **ESRI ユーザー会議への参加**

ESRI ワールドユーザー会議（サンディエゴ市）に参加し，情報の交換と収集を行う。国内におけるユーザー会議ではNPOとしてブース出展等を予定。

- **地域自然情報研究会**

月一回の定期開催を続け，情報提供・情報交換・人材育成に努める。

- **レンジャー等の行政職員を対象とした講習**

レンジャー職員等を対照とした研修に講師派遣を行い，自然環境に関する GIS の利活用方法について講義する

- **自然資源活用事業**

地域の自然の価値発見，CSR への協力などを自治体，企業に提案する。

- **広報事業**

ホームページ等による広報を行う。広報を会員への情報提供の重要な手段と考え，その改善につとめる。

4. 自然環境保全にかかわる支援活動事業

- **西武・狭山丘陵パートナーズ指定管理業務**

東京都建設局の公園指定管理者として，「都立公園狭山丘陵グループ」に自然環境 GIS の整備と管理・運営への活動提案をする。5年継続業務の第4，5年目に当たる。維持管理 GIS の充実化を進めるとともに，萌芽更新の履歴や市民グループでの管理履歴，ボランティアの管理履歴データなどを GIS データ化するとともに，希少種や注目種の出現状況と重ね合わせることで，生物の多様性に配慮した管理の在り方についての提言を行う。

- **大自然塾講師**

本年度も講師派遣の依頼がある。本年度は雑木林の管理計画の考え方など全体で5回の講義が依頼されている。

- **阿蘇草原再生協議会**

前期に引き続き，協議会・生物多様性小委員会に参画し，さらに観光小委員会に参加する。次々回の協議会に，再生事業計画として「阿蘇地域における森林の増加と湧水量の減少の相関に関する研究」を提案する。また，プロジェクトチームを結成して，助成金に応募し，研究を実施し，阿蘇の草原再生が熊本地域の湧水量確保に貢献することを証明し，草原再生の必要性を説く。